

退任の挨拶



沿岸域社会計画分野
村野 昭人 客員准教授

早いもので、2007年4月の就任から3年が経過しようとしています。この3年間、陸域の活動が有明海の水質・底質に与える影響を分析することを通じて、地域における環境改善手法について検討することをテーマとして、研究に取り組んでまいりました。具体的には、熊本県の各自治体を対象として、水処理技術を導入した場合の環境効率を分析し比較いたしました。その結果、人口密度が高い都市部と低い山間部では、下水道を導入した際の効率

に約10倍もの差が生じることが明らかとなりました。

私の研究はシミュレーションなどの分析が中心となるので、現場と関わるのが少ないのですが、熊本では干潟を見学させていただいたり、海で研究されている方と議論したりする機会をいただき、大きな刺激を受けました。また、熊本との往復に際して、飛行機を利用する時には熊本平野の姿を上空から眺めることが、鉄道を利用する時には新幹線の開通を間近に控えた熊本駅前の変貌を実感することが、いつも楽しみでした。

任期中、センターの先生方を始め多くの方々には大変お世話になりました。この場を借りて、感謝申し上げます。客員准教授としての任期は3月で切れますが、研究は継続していきますので、今後ともよろしくお願い致します。



熊本県における人口密度分布



下水道由来の一人あたりCO2排出量の分布

第8回沿岸域センター講演会が開催されました

2010年1月23日午後、熊本大学工学部百周年記念館において、第8回熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会が開催され、センター教員からの1年間の成果が発表されました（講演要旨は、沿岸域センターHPをご覧ください）。なお、熊本大学附属図書館の学術リポジトリにも登録されています。

プログラム

- 「スナガニ類の巣穴が小型底生生物の
微小空間分布に与える影響」
嶋永 元裕
- 「有明海における1960年代以降の底質変化」
秋元 和寶

- 「養殖ノリの重金属ストレスに対する応答機構」
瀧尾 進
- 「アオノリの繁殖におけるリズム現象」
桑野 和可（長崎大学；学外協力研究者）
- 「沿岸帯における環境保全・自然再生の「工夫」を探る」
五明 美智男
- 「ハマグリ資源管理技術の開発」
逸見 泰久
- 「熊本県を対象とした水処理技術システム導入による環境効率の評価」
村野 昭人
- 「有明・八代海の水環境特性と再生への技術開発」
滝川 清